

あの日あのとき

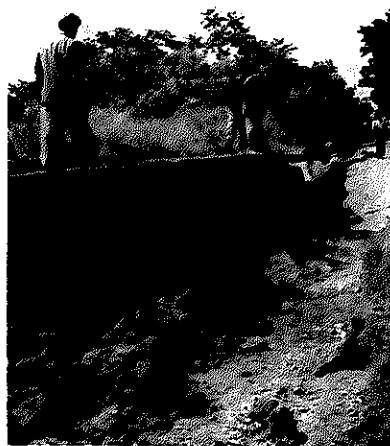
突然襲った恐怖の震度5

新潟地震

昭和39年6月16日午後1時ころ、突然襲ってきた大地震。震度5(マグニチュード7.7)という強烈なゆれは、一瞬にして大きな被害をもたらしました。

震源地は粟島付近。この地震で粟島は1.5mも隆起しました。昭和石油の火災の黒い煙は、15日間も燃え続け、白根の上空をおおいつくすほどでした。

地盤の軟弱な白根市も被害は大きく、信濃川と中の口川にかかる17の橋のうち、11の橋が落ちて孤立状態に陥りました。当時の根岸中学校は傾斜して使用不可能になり、道路や堤防、田畑はいたるところに亀裂や断層ができ、市の様相は一変してしまいました。



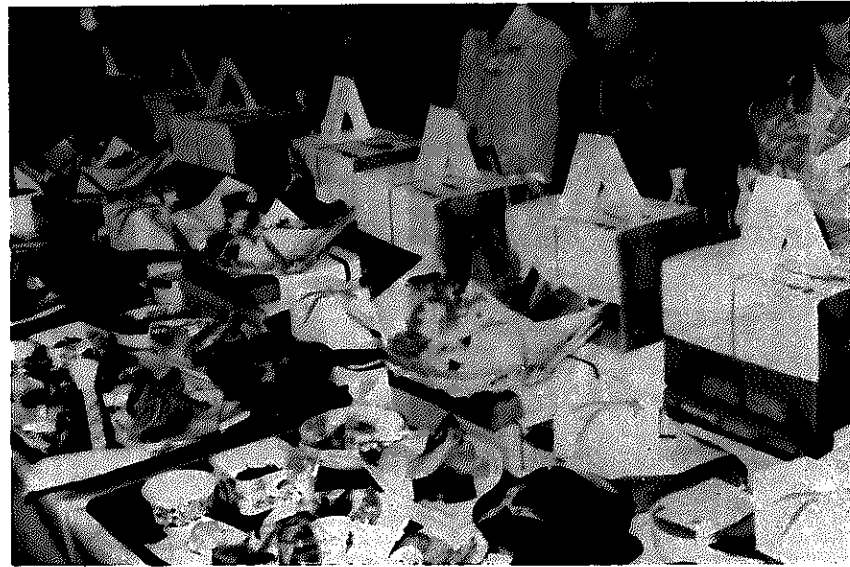
自然の猛威はすさまじい。現在の根岸小学校裏の堤防にできた断層

家で昼食をとっていたところ、突然ムツツと激しいゆれと音。すぐさま堤防にかけ登りました。中の口川の水が波うち、家々はこたつやぐらを動かしたようでした。

部落の半鐘の音で、根岸中学校付近の堤防へ急ぐと、長さ15m、高さ2mの断層ができて危険な状態でした。グラウンドからは2、3mもどろ水がふきあげ、自然の力のものすごさを痛感しました。

【私の思い出】

小林素納さん
(農業・上塩炭)



年々結婚式も豪華に。たくさんの引き出ものに、ふろしきも一枚ではたりないほど……

故人と何のかかわりもない有名な政治家の花輪が並ぶ……その土地の風俗習慣とはまったく無縁に近いものになった。渋谷さんの提案の趣旨も、ここらにあると考えます。

くらしのみなおしは、外見でなく、中味なのだという一人ひとりの認識から始まるものです。

むだを省く虚礼廃止はみんなの協力から

大竹 弘さん
(白井・自営業・39歳)

人と人との温かいつき合いをそこなわずに、むだを省く虚礼廃止には大賛成です。

そこで私は、次の二点について提案したいと思います。

一つは、冠婚葬祭やいろいろのお見舞いは、常識的な金額で贈りものをするのはやむをえないことだと思えます。しかし、お返しはなくて、心のこもった

冠婚葬祭、慶弔のお返しなど年々派手になってきました。しかし、率先してそんな風潮に逆らう人もいないようです。

七、八年前、公民館で話し合っただけのことは、まず身近なところからと、地区内の香典返しや、会葬お礼のハガキ、病氣見舞いの廃止でした。それらは、いままも割に良く守られているようです。

公民館活動を中心に いまも簡素化を実践

佐野千代さん
(桑道湯・主婦・59歳)

冠婚葬祭、慶弔のお返しなど年々派手になってきました。しかし、率先してそんな風潮に逆らう人もいないようです。

七、八年前、公民館で話し合っただけのことは、まず身近なところからと、地区内の香典返しや、会葬お礼のハガキ、病氣見舞いの廃止でした。それらは、いままも割に良く守られているようです。

先口、長らく入院された家族から「おかげさまで退院できました。お世話さまでした」との電話。お返しの品物より、真心の言葉にその人柄を感じ、とてもうれしく思いました。

「時代だからしかなかった」です。すまざる、お互いに愚知の無い贈りものを。生活を見つめて良く話し合い、良く守り、良い交際を重ねていきたいものです。

病氣見舞いは現金でお返しはタオル一本で

藤田悦子さん
(水道町・主婦・39歳)

冠婚葬祭や、贈りものとのお返しは、簡素化が叫ばれてはいるものの、年々エスカレート。地域ぐるみで何とかできないものかといつも思っています。そのなかで最も身近な病氣見舞いの例に、考えてみました。数年前、骨折で長く入院され

た友人に、率直にお見舞いは何が一番良かったか、聞いたことがあります。「現金」と答えられ、「お返しの品選び」が一番困ったそうです。缶詰、果物などをたくさんいただいたり、その方の病状や好みでかえって迷惑の場合も考えられます。

現金であれば家族が病人の症状に合わせて食べ物や着替えなど、役に立つものを選びますから、お見舞いの心が通じるといえるのです。最近では現金だけでもお勧めしています。

さて、お返しは病後を押しての品選びのわずらわしさは大変なもの。先日新聞に「ハガキ一本に決めた地域がある」と出ていたが、せめてタオル一本を持参してお礼申しあげたらいかがでしょうか。いままも個人的に実行は無理ですが、白根全域に呼びかけ、一斉に実行に移したいものです。

これらの簡素化を図るには地域住民の話し合いによる実行が第一だと思えます。しかし、広域的な実行のためには、市町村当局や公民館などの働きかけや話し合いにより、相互に守られる点を見出し、その実行の申し合わせが必要だと思えます。その輪が大きく広がり、みんなが心おきなく実行できるようになればと思うのですが。

以前は、冠婚葬祭の儀といえ、その土地の風俗習慣の代名詞。白根は歴史のあるまち。その風土のなかで育った冠婚葬祭の儀式は、歴史の祭典でもあったはず。

しかし、最近のこの種の儀式は、本来の姿はなく、商業ベースにのせられた形式だけのものになってしまった。仏つくて魂なしの儀式ばかり……成人式といえ、新成人のかっこうは一級品でも、マナーは二級品。結婚式は、家と家の財力の誇示の様相。葬式にいたっては、

私たちの白根市を空から見ると、きつとグリーンのじゅうたんと敷きつめたように見えることでしょうか。しかし、秋にはグリーンのじゅうたんに見えた水稲もなくなり、水田も少なくなってきました。

私たちのまわりはどうでしょう。家の周囲の生け垣もプロックベリにかわってしまいました。

て、ときには心をこめてたたためた一通の手紙のなかに、相手の真心を深く感じるということもあると思うのですが……。

外見より中味という一人ひとりの認識を

西方麗子さん
(龍登・主婦・40歳)

以前は、冠婚葬祭の儀といえ、その土地の風俗習慣の代名詞。白根は歴史のあるまち。その風土のなかで育った冠婚葬祭の儀式は、歴史の祭典でもあったはず。

しかし、最近のこの種の儀式は、本来の姿はなく、商業ベースにのせられた形式だけのものになってしまった。仏つくて魂なしの儀式ばかり……成人式といえ、新成人のかっこうは一級品でも、マナーは二級品。結婚式は、家と家の財力の誇示の様相。葬式にいたっては、

市民

来月のテーマ

緑と花のあるまち

投稿ください

みなさんの意見交換の場がこの市民談話室です。

来月のテーマは、「緑と花のあるまち」です。石田さんの提案について、気軽に意見をお寄

してください。また、新しいテーマと意見を提案していただいてもけっこうです。薄謝をさしあげます。ページの都合で、文を短くすることがあります。

あて先は、大字白根1235 白根市役所企画財政課広報広聴係。6月17日までに郵便ポストへ。

談話室

今月のテーマ

くらしのみなおし

冠婚葬祭や、慶弔の贈りものと、そのお返しなどの簡素化はみなさんが良いことだと知りながらも、なかなかその実行ができなものです。その原因は、経済の豊かさだけではないうです。

これらの簡素化を図るには地域住民の話し合いによる実行が第一だと思えます。しかし、広域的な実行のためには、市町村当局や公民館などの働きかけや話し合いにより、相互に守られる点を見出し、その実行の申し合わせが必要だと思えます。その輪が大きく広がり、みんなが心おきなく実行できるようになればと思うのですが。

冠婚葬祭、慶弔の贈りものと、そのお返しなどの簡素化はみなさんが良いことだと知りながらも、なかなかその実行ができなものです。その原因は、経済の豊かさだけではないうです。

これらの簡素化を図るには地域住民の話し合いによる実行が第一だと思えます。しかし、広域的な実行のためには、市町村当局や公民館などの働きかけや話し合いにより、相互に守られる点を見出し、その実行の申し合わせが必要だと思えます。その輪が大きく広がり、みんなが心おきなく実行できるようになればと思うのですが。

以前は、冠婚葬祭の儀といえ、その土地の風俗習慣の代名詞。白根は歴史のあるまち。その風土のなかで育った冠婚葬祭の儀式は、歴史の祭典でもあったはず。

しかし、最近のこの種の儀式は、本来の姿はなく、商業ベースにのせられた形式だけのものになってしまった。仏つくて魂なしの儀式ばかり……成人式といえ、新成人のかっこうは一級品でも、マナーは二級品。結婚式は、家と家の財力の誇示の様相。葬式にいたっては、

来月の提案者

石田 篤さん
(上塩炭・公務員・26歳)

家々の窓辺には、赤やピンクの花を置き、家の回りには生け垣や花壇を……商店街にもフラワーボックスや車の多い道路には緑あふれる並木道に……この緑地帯・うるおいのある緑の公園もほしいですね。

白根市を花や緑でいっぱいにするべく、楽しいまちを、みんなで作っていききたいものです。

家々の窓辺には、赤やピンクの花を置き、家の回りには生け垣や花壇を……商店街にもフラワーボックスや車の多い道路には緑あふれる並木道に……この緑地帯・うるおいのある緑の公園もほしいですね。

白根市を花や緑でいっぱいにするべく、楽しいまちを、みんなで作っていききたいものです。



緑あふれるまちに (電報電話局前)

今月の提案者

渋谷チイさん
(下山崎・主婦・64歳)

冠婚葬祭や、慶弔の贈りものと、そのお返しなどの簡素化はみなさんが良いことだと知りながらも、なかなかその実行ができなものです。その原因は、経済の豊かさだけではないうです。

冠婚葬祭や、贈りものとのお返しは、簡素化が叫ばれてはいるものの、年々エスカレート。地域ぐるみで何とかできないものかといつも思っています。そのなかで最も身近な病氣見舞いの例に、考えてみました。数年前、骨折で長く入院され

私の意見

木川久子さん
(龍助木・主婦・44歳)

冠婚葬祭や、贈りものとのお返しは、簡素化が叫ばれてはいるものの、年々エスカレート。地域ぐるみで何とかできないものかといつも思っています。そのなかで最も身近な病氣見舞いの例に、考えてみました。数年前、骨折で長く入院され

以前は、冠婚葬祭の儀といえ、その土地の風俗習慣の代名詞。白根は歴史のあるまち。その風土のなかで育った冠婚葬祭の儀式は、歴史の祭典でもあったはず。

しかし、最近のこの種の儀式は、本来の姿はなく、商業ベースにのせられた形式だけのものになってしまった。仏つくて魂なしの儀式ばかり……成人式といえ、新成人のかっこうは一級品でも、マナーは二級品。結婚式は、家と家の財力の誇示の様相。葬式にいたっては、